

C ' S M A I L

VOL. 71

 **コスモ石油株式会社**

株主通信《シーズ・メール》SPRING 2012

第106期 第3四半期 事業のご報告

平成23年4月1日～平成23年12月31日





コスモ石油株式会社
代表取締役社長

木村 彌一

トップ・インタビュー

Top Interview

千葉製油所の本格的な 稼働再開による収益力の回復と 石油開発、石油化学事業の進展による 収益の拡大に取り組んでいきます

東日本大震災後に発生した当社千葉製油所の火災事故から1年が経過しました。今回は、千葉製油所の復旧状況や当社の足元の事業環境、そして2012年度以降の経営戦略や収益状況について、当社代表取締役社長の木村彌一へのインタビューを通じて、お伝えしていきます。

千葉製油所 LPGタンク火災後の状況

*

Q 東日本大震災から1年が経過しました。改めて、今のお気持ちをお聞かせください。

東日本大震災で被災された方々には、改めて、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、地震により発生した当社千葉製油所のLPGタンク火災につきましては、株主の皆様、近隣住民の皆様をはじめ、関係する多くの方々に多大なご迷惑と、ご心配をおかけしました

ことを、改めて深くお詫び申し上げます。

株主の皆様には、四半期ごとの決算の機会に株主通信の紙面上や当社ホームページで千葉製油所稼働停止に伴う収益への影響等につきましてご説明してまいりました。震災の影響により厳しい収益環境が続いた2011年度は多大なご心配をおかけいたしました。2012年度は収益の回復に向け、各事業における進展をご報告できるよう努めてまいります。

周辺住民の皆様には、千葉製油所のLPGタンク火災の鎮

火後に社員が訪問して、お詫びと共に事故の内容を説明し、皆様からは貴重なご意見を賜りました。今後、いただいたご意見を製油所運営に反映していくと共に、日頃から製油所の状況等につきまして、地域の皆様とコミュニケーションを図ることの重要性を再認識しました。また、国や県をはじめ、行政関係の皆様には、事故の再発防止、及び千葉製油所の再稼働に向けて親身なご指導をいただいたことを、大変感謝いたします。

当社千葉製油所の社員にとっても、これだけの長い期間操業を停止した経験は初めてであり、大変苦しい時期を過ごしてきました。また、千葉製油所のみならず全社員が安全で安定した操業の大切さを改めて痛感しています。今後も経営を預かるものとして、これまで以上に安全操業の重要性を継続的に社員に語りかけ、当社グループ全体で安全レベルの向上に努めていきます。

*

Q 千葉製油所が操業を停止するなか、被災地へのエネルギー供給はどのように対応したのでしょうか。

当社の使命はエネルギーの安定供給です。震災後は四日市、堺、坂出の3製油所の処理能力を高め、被災地に対して優先的に石油製品の供給を行いました。また、海外輸出を取りやめ、それでも不足する分については、製品の追加輸入などを行うことで、国内への供給をまかないました。

また、これはめったに行わないことではありますが、被災地にはドラム缶による灯油の供給も実施し、被災地のサービスステーションについても、全力で

早期の営業再開に努めてきました。

*

Q 現在の千葉製油所の復旧状況について、教えてください。

1月に入り、火力発電所向けのC重油を生産する直接脱硫装置の稼働を再開し、本格的な再稼働に向けた第一歩を踏み出しました。2012年度以降、ガソリンや灯油・軽油の生産を行うため、常圧蒸留装置につきましても保安検査証を受領し、運転準備に入りました。(3月27日現在)

また、被災したLPGタンクの再建につきましては1月中旬に基礎工事を開始しており、完成までには1年強を見込んでいます。

■被災地におけるサービスステーションの営業再開の様子



被災直後のSS (2011年3月25日撮影)



営業再開後のSS (2011年4月5日撮影)

トップ・インタビュー

Top Interview

*
Q 事故の再発防止策についてはいかがですか。

火災事故の直後に事故調査委員会を立ち上げ、事故原因を徹底究明すると同時に、再発防止策を策定しました。再発防止策を確実に実行できる組織体制としました。具体的には再発防止の取り組みの進捗について、本社の主管部署が確認を行い、確認した内容をさらに社長直轄の監査室が監査することで、再発防止策の実効性を高めていくものです。再発防止策を実施する際に抽出された改善点については、他の製油所にも水平展開していくことで、グループ全体の安全レベル向上を実現させます。

また、最近話題となっている



3連動地震の想定被害シナリオに基づいた総合訓練の様子（2012年3月12日）

首都圏直下型の地震や、東海・東南海・南海の3連動地震を想定し、事業継続計画（BCP）の見直しを行っています。これまでも毎年、訓練は行ってきましたが、今年3月12日には、3連動地震の想定被害シナリオに基づいた総合訓練を実施しました。訓練の結果を新たなBCPに反映させ、大規模震災時においても石油製品の安定供給を行える体制を構築していきます。

2011年度の収益環境と 2012年度の見通し

*
Q 2011年度の収益状況については、いかがですか。

石油開発事業については、順調な生産に加え、原油価格が高止まりしたこともあり収益は堅調に推移しています。石油精製事業については、千葉製油所の稼働停止により、石油製品の輸入・購入を実施したことで代替供給コストが発生し、非常に厳しい収益環境となりました。

石油化学事業については、製品市況が回復したことで、前年度比で増益となる見込みです。

*
Q 2012年度の収益環境については、どのような見通しをされていますか。

石油開発事業については、イラン情勢など不透明な点がありますが、引き続き新興国の需要増加が牽引役となり、原油価格が高止まりする可能性が高く、安定した収益を確保できると考えています。

石油精製事業については、2012年度は千葉製油所の本格的な再稼働が見込まれることから、2011年度に発生した代替供給コストが縮小することで、収益は大きく改善する見込みです。また、石油製品の輸出数量を増やすこともできますので、輸出による収益を享受できるだけでなく、国内の需給バランスを適正化しやすくなることで市況も改善に向かうと考えています。

石油化学事業については、四日市製油所のミックスシレ

ン製造装置が本格的に稼働を開始することから石油化学による当社の収益拡大が本格的に始まる年度となります。

*

Q 国内の石油精製設備の効率化をめざす、高度化法への対応はいかがですか。

エネルギー供給構造高度化法への対応について、当社は、第4次連結中期経営計画の最終年度となる2012年度中に方針を公表する予定です。高度化法への対応により、石油精製事業のさらなる効率化と供給体制の再構築を進めていく所存です。

石油化学、石油開発事業の中長期に向けた展開

*

Q 次に、もう少し中長期的な視点から、今後のコスモ石油の成長戦略についてお聞かせください。

石油化学事業の拡大に向け、韓国のヒュンダイオイルバンク株式会社 (HDO) と提携して、

パラキシレン (PX) 事業の拡大を進めてきました。2013年にはPXを年間80万トン生産する新設装置が本格的な稼働を開始する予定で、既存装置と合わせ年間118万トン生産できる体制が整うため、今後の収益に大きく貢献してくれるものと期待しています。

それからHDOとの関係で、もうひとつ申し上げたいのは、この震災後、HDOからガソリンなど石油製品の緊急輸入などで多大なるご協力をいただいたという点です。これを契機として、緊急時における補完関係をさらに深めることができると考えています。今後は共同投資なども視野に入れた石油精製分野での連携を図るなど、協力の領域を拡大させていくことも考えております。すでに、研究開発の分野においては技術委員会を設置して定期的な会合を開き、情報交換を行っています。

*

Q 石油開発事業の中長期的な成長についてはどのようにお考えですか。



社員一人ひとりが
安全操業の大切さを再認識し、
当社グループ全体で
安全操業に努めてまいります。

トップ・インタビュー

Top Interview

石油開発事業については、連結子会社であるアブダビ石油株式会社の既存鉱区の利権について、30年に亘る期限延長を実現できました。その際に新しく取得した鉱区であるヘイル油田からの原油生産についても早期に開始できるよう、準備作業に全力で取り組んでいます。ヘイル油田は既存の鉱区に近いので、出荷設備など既存のインフラを活用できるというメリットがあります。そのため、生産に至るまでの期間も短縮でき、コストを抑えられることが強みとなります。新しい油田は、既存鉱区と同規模の生産量が期待されており、生産開始後は当社の収益拡大に大きく寄与するものと確信しています。

再生可能エネルギーの 取り組みについて

*

Q 震災以後、再生可能エネルギーをはじめとして、日本のエネルギー供給のあり方について議論がなされています。エネ

ルギーの安定供給という使命を担うコスモ石油として、今後、どのような役割を果たすべきとお考えでしょうか。また、そのための具体的な取り組みがあれば教えてください。

現在、当社は再生可能エネルギーへの取り組みとして風力発電を手掛けており、これは日本の新しいエネルギーの供給体制にも寄与できる事業と考えています。2012年7月から再生可能エネルギーの全量買取制度が導入される見込みですので、今後、国内の風力発電事業は拡大していくと考えられます。ただし、長期的な風力発電事業の拡大には、電力を送るための送電網の強化や自然公園法などの改正による規制緩和も必要となるため、今後も業界団体などを通じて要望していきたいと思えます。

当社連結子会社のエコ・パワー株式会社は、2010年に当社が株式会社荏原製作所から株式を取得して子会社化しました。規模としては昨年の3月末時点で風車が130基、設備

能力は約15万キロワットあります。風力発電設備はトラブルによる稼働停止が多いという課題があり、稼働率を向上させることが収益の改善に直結します。エコ・パワー社は設備のメンテナンス強化に取り組み、当社が株式を取得してから1年で黒字化を達成しています。

*

Q 風力発電事業の中長期の成長に向けた取り組みはいかがですか。

現在は風力発電事業の拡大に向けて、福島県、三重県、和歌山県の3カ所で開発計画

■エコ・パワー社の 主な風力発電サイトの位置



を進めており、合計で概ね9万キロワットの発電量を計画しています。既設サイトの発電設備については、スクラップ&ビルドによって設備をリニューアルすることで、発電能力を増強することが検討課題のひとつとなっています。また、他社風力発電サイトの買収や、長期的には海外展開も視野に入れています。

それから、風力発電サイトに太陽光発電のメガ・ソーラーを設置するといったアイデアも出ています。エコ・パワー社の資産（未利用地）を有効活用するだけでなく、風力発電サイトと同じ場所に設置することで効率的に設備のメンテナンスを行い、発電サイトトータルのコストを下げるという考えです。



エコ・パワー社、青森県の風力発電設備
「岩屋ウィンドパーク」

*

Q 最後に株主の皆様に向けたメッセージをお願いします。

先の震災を契機に政府がエネルギー政策の見直しを進めていますが、石油の基幹エネルギーとしての位置づけは当面変わることはなく、人口増加に伴い海外でも需要は拡大していきます。その中で、当社は、石油事業をコアとし、国内では効率化を追求し、一方海外では積極的に展開していくことで会社規模を維持していくことを基本方針としております。石油開発、石油化学といった石油関連事業の軸足をさらに強くしていくと同時に、風力発電事業といった再生可能エネルギー事業にも取り組むことで、エネルギーの安定供給という使命を果たしながら、中長期の成長をめざしていきます。今後ともコスモ石油グループへの変わらぬお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



エネルギーの安定供給という
当社の使命を果たすため、
再生可能エネルギーにも
取り組んでいきます。

特集：石油化学事業

Petrochemical Business Strategy

国内やアジアの市場変化を捉え、 石油化学事業を拡大していきます

国内のガソリン需要が減少する一方、
アジア市場では化学繊維やペットボトルなどの石油化学製品の
需要が拡大しています。

当社は、ガソリンから石油化学製品原料へと
生産シフトを図ることでビジネスの成長をめざします。



四日市製油所に新設したミックス
キシレン製造装置

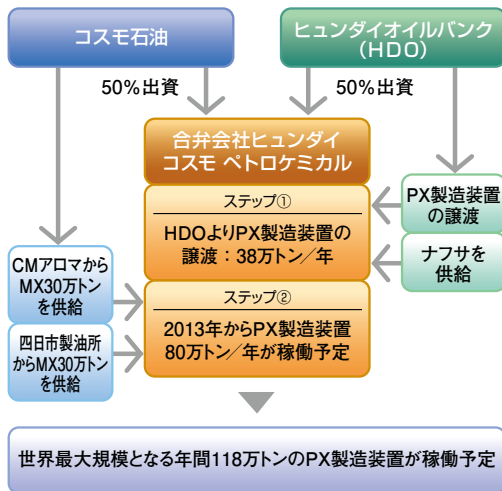
グローバルな市場の変化を捉え 事業の成長を図ります

国内の石油製品需要は年々減少しています。特にガソリンについては、ハイブリッド車などによる燃費の向上や、若者の車離れなどにより、今後も減少が続く見込みです。一方、中国やインドのように経済成長や人口増大が続く地域に目を向けると、衣料品やペットボトルなど石油化学製品の原料となるパラキシレン (PX) の需要が拡大しています。当社は、こういった国内外の市場の変化をチャンスと捉えています。PXの原料は、ガソリンと同じ基材であるため、PXを新たに製造することは、ガソリンの需要減対策に繋がります。また、同時に旺盛な海外のPX需要に応えることで、石油化学事業の拡大を図ります。

ヒュンダイオイルバンクと協同で 石油化学事業を拡大

アジア市場における石油化学事業の拡大に向けて、当社は韓国のヒュンダイオイルバンク株

■当社とHDOの石油化学事業のビジネススキーム



式会社 (HDO) と2009年に合弁会社、ヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社 (HCP) を設立しました。HDOから譲渡された既存のPX製造装置 (38万トン/年) に加え、2013年には新設予定のPX製造装置 (80万トン/年) が稼働を開始することで、PXの製造拠点として、HCPは世界的なプレゼンスを高めていきます。また当社は、PXの原料となるミックスキシレン (MX) の供給拠点として、千葉製油所に隣接するCMアロマ株式会社 (30万トン/年) に加え、四日市製油所内に新設したMX製造装置 (30万トン/年) からの供給により、2013年からは合計60万トンのMXをHCPに供給する予定です。

■パラキシレン製造におけるビジネススキーム



世界最大規模のパラキシレン生産体制の確立に向けて

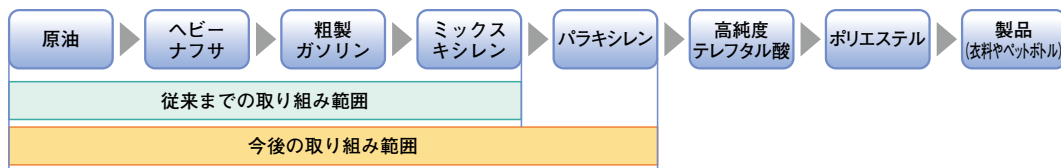
2013年から新設装置によるPXの製造が本格化すると、HCPは年間118万トンの生産能力を持つ世界有数のPXメーカーとなります。

PXは高純度テレフタル酸からポリエステルへと加工され、衣料品やペットボトルなどの最終製品となります。

当社としても、国内のガソリン需要が減少する中、MXに生産をシフトすることで、製油所の競争力を向上させることができます。

当社は、今後とも世界の市場変化を捉え、国内外のネットワークを活用しながら、事業を成長させていきます。

■パラキシレンの精製フロー図



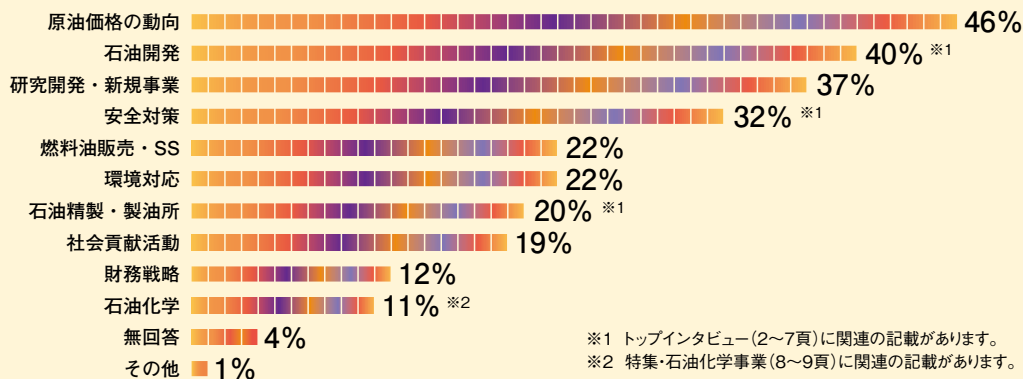
読者アンケート

Questionnaire Investigation

アンケートにご回答いただき、ありがとうございました 読者の皆様からお寄せいただいた、ご質問にお答えします

シーズ・メール69号のアンケートに、約5,500通のご回答をいただき、ありがとうございました。
皆様から関心をお寄せいただいている項目について、
今回は、石油製品販売、CSR・社会貢献活動、新規事業についてご説明します。

■読者アンケート「当社に関連する興味がある情報」の集計結果 (複数回答)



※1 トップインタビュー(2~7頁)に関連の記載があります。

※2 特集・石油化学事業(8~9頁)に関連の記載があります。

石油製品販売の取り組み

Q

震災後、被災地への石油製品の供給についてどのように対応しましたか。(50代 女性) —他8名

A

被災地の復興と石油製品の安定供給に向けて努力を続けています。

東日本大震災では、多くのサービスステーション(SS)や出荷施設が被災し、東北地方を中心に石油製品の供給能力が大きく不足しました。エ

ネルギーの中でも社会性の極めて高い石油製品の供給を行う企業として、社会的責任を果たすため、可能な限り短時間で供給不足の解消ができるよう、総力を挙げて石油製品の供給に努めました。特に震度6以上であった地域のSSについては、地下タンクや配管の緊急点検を実施し、早期の営業再開に努め、現在はほぼ震災前の供給体制にまで復旧しました。今後とも、被災地の復興と石油製品の安定供給に向けて、最大限の努力をしてみたいです。

CSR・社会貢献活動の取り組み

Q CSR・社会貢献活動はどんなことを
行っていますか。
(50代 女性) — 他8名

A 社員やお客様とともに、心豊かな社会
づくりに貢献しています。

当社は、「企業は社会の一員である」という認識のもと、社員一人ひとりが環境・社会貢献マインドを持って活動できる企業風土の醸成に取り組んでいます。社員が主体的に参加する社会貢献活動としては、1993年に「コスモわくわく探検隊」をスタートしました。これは、交通遺児の小学生を対

象とした自然体験プログラムです。1995年からは、全国FMラジオ局とのパートナーシップによる「コスモ アースコンシャス アクト」を通じて、広く世の中に環境メッセージを発信しています。また、2002年からは、お客様とともに環境保全に取り組む「コスモ石油 エコカード基金」の活動を開始し、国内外の環境修復と保全、次世代の育成に取り組んでいます。



第19回コスモわくわく探検隊の様子

新規事業の取り組み

Q 新規事業はどんなことをしています
か。(40代 男性) — 他7名

A ALAを配合した商品の開発・販売に
注力しています。

ALA (5-アミノレブリン酸) は、天然のアミノ酸の一種で、植物の生長促進や人間の健康維持に大きな役割を果たします。当社は、ALAの大量生産に関する特許を取得した強みを活かし、農業用・家庭用の液体肥料で事業拡大に注力しています。世界で初めてALAを配合した機能性液体肥料

「ペンタキープシリーズ」は、国内外で高い評価を得ており、国内では2004年に植物化学調節学会技術賞を、ヨーロッパでは世界最大規模の農業展示会Horti Fair (オランダ)において2003年テーマ賞を受賞しました。さらに、合弁会社SBIアラプロモ株式会社を通じて、ALAを含有した化粧品やサプリメントの販売も行っているほか、育毛剤や医療品の開発にも取り組んでいます。



業務用液体肥料
ペンタキープ Super



家庭用液体肥料
ペンタガーデン Value
野菜 & 果物用

トップ・メッセージ

Top Message



代表取締役会長 (左)
岡部 敬一郎

代表取締役社長 (右)
木村 彌一

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の第106期、第3四半期連結累計期間(2011年4月1日～2011年12月31日)(以下:当第3四半期)の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

当第3四半期の事業概要について

当第3四半期における国内の経済環境は、東日本大震災の影響で引き続き厳しい状況にあるなか、サプライチェーンの立て直しや政府の政策効果等を背景として、景気は持ち直し傾向が見られました。

第106期(2012年3月期) 第3四半期連結累計期間 財務・業績のご報告

当社グループの事業環境については、原油価格は中東、北アフリカ情勢の懸念やイランの核開発疑惑など地政学リスクの高まり等の影響を受け、当社の受入原油コストは1バレル109.59ドルと前年同四半期比31.99ドル上昇しました。為替は、欧州の財政危機等を背景とした円高により、1ドル79.43円と前年同四半期比8.00円の円高となりました。こうしたなか、国内の石油製品市況は回復基調をたどりましたが、石油製品需要の停滞傾向が回復するまでには至りませんでした。

■ 連結業績サマリー

(単位:億円)

	2011年度第3四半期	前年同四半期比
連結売上高	22,295	2,337
連結営業利益	285	-284
連結経常利益	242	-271
在庫評価の影響	136	174
ネット連結経常利益	106	-445
連結四半期純利益	-164	-309

コスモ石油グループの営業概況

営業概況を事業セグメント別に解説しますと、石油事業については、軽油・C重油は前年同四半期比で微増しましたが、ガソリン、灯油、ナフサ、ジェット燃料油等の油種は減少しました。コスモ石油個別の国内燃料油の総販売数量は前年同四半期比96.5%となり、中間留分の輸出数量は、千葉製油所の稼働停止に伴い国内の供給を優先したことで前年同四半期比22.8%と大幅に減少しました。

上記に加え、千葉製油所の稼働停止による代替供給コスト等により、石油事業のセグメント損失は、61億円（前年同四半期比302億円減益）となりました。一方、石油化学事業については、パラキシレン市況の回復に伴いセグメント利益は、13億円（同23億円増益）となりました。石油開発事業については、原油価格上昇を主な要因として、セグメント利益は361億円（同83億円増益）となりました。

■ 2011年度通期の連結業績予想

（2012年2月2日公表）

●通期（2011年4月1日～2012年3月31日）（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	30,700	740	720	0

●受入原油価格、為替の前提

2011年度（2011年4月～2012年3月）前提

原油価格（ドバイ）=108.00ドル/バレル 為替=78.90円/ドル

当第3四半期の連結経営成績については、売上高2兆2,295億円（前年同四半期比2,337億円増収）、営業利益は285億円（同284億円減益）、経常利益は242億円（同271億円減益）また、四半期純利益は、税制改正に伴い法人税率が変更されたこと等で繰延税金資産の一部を取り崩したことにより、164億円の損失（同309億円減益）となりました。

2012年3月期 通期の見通し

2012年3月期、通期の予想につきましては、税制改正の影響を反映し、繰延税金資産の一部を取り崩すことにより、当期純利益を0億円（前期比289億円減益）に修正しました。その他については、2011年11月2日の公表時より変更せず、売上高3兆700億円（前期比2,985億円増収）、営業利益740億円（同301億円減益）、経常利益720億円（同241億円減益）となる見通しです。年間の配当は期末一括で、8円（中間0円）とさせていただきます。株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想につきましては、2012年2月2日の発表日において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

要約四半期連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

要約四半期連結損益計算書

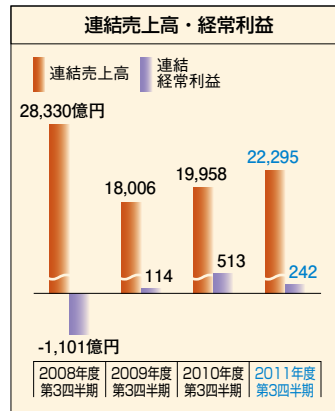
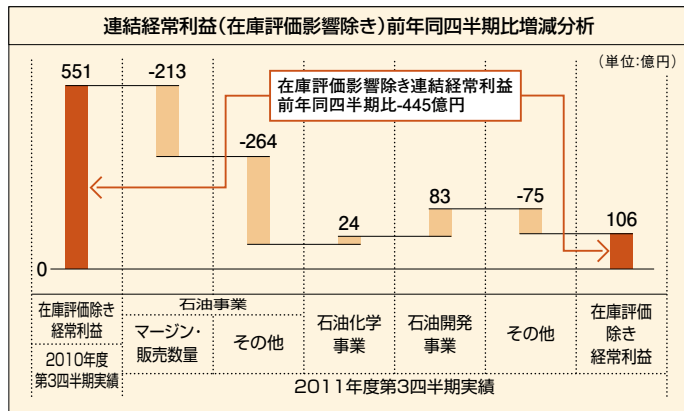
(単位:億円)

科目	当第3四半期 (2011.4.1～2011.12.31)	前第3四半期 (2010.4.1～2010.12.31)
売上高	22,295	19,958
売上原価	21,070	18,446
販売費及び一般管理費	940	943
営業利益	285	569
営業外収益	73	57
営業外費用	116	113
経常利益	242	513
特別利益	8	5
特別損失	199	96
税金等調整前四半期純利益	51	422
法人税等	187	246
少数株主損益調整前四半期純利益(－は損失)	-136	176
少数株主利益	28	31
四半期純利益(－は損失)	-164	145

※億円未満を四捨五入しています。

販売価格の上昇等により増収 代替供給コスト等により減益

当第3四半期の連結売上高は、2兆2,295億円となり前年同四半期比2,337億円の増収、連結経常利益は242億円で前年同四半期比271億円の減益となりました。在庫評価の影響136億円を除いた連結経常利益は106億円となり、前年同四半期比445億円の減益となりました。その主な内訳は、マージンの悪化等で-213億円、千葉製油所の稼働停止に伴う代替供給コスト等で-264億円となる等、石油事業合計では-477億円。石油化学事業はマージンの改善等で+24億円、石油開発事業は原油高の影響等で+83億円、その他で-75億円となりました。四半期純利益は、税制改正により繰延税金資産の一部を取り崩したことにより、164億円の損失となり前年同四半期比309億円の減益となりました。



要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当第3四半期末 (2011.12.31)	前期末 (2011.3.31)
資産の部		
流動資産	8,627	7,934
固定資産	7,622	7,857
有形固定資産	5,866	6,036
無形固定資産	110	115
投資その他の資産	1,646	1,706
繰延資産	3	3
資産合計	16,252	15,794
負債の部		
流動負債	7,108	6,222
固定負債	5,856	6,070
負債合計	12,964	12,292
純資産の部		
株主資本	2,931	3,164
その他の包括利益累計額	154	164
少数株主持分	203	175
純資産合計	3,288	3,502
負債純資産合計	16,252	15,794

※億円未満を四捨五入しています。

●資産の部

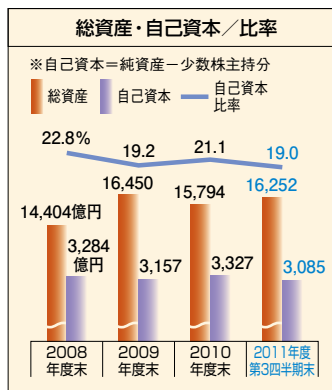
総資産は、冬場の需要期に向けた在庫の積み上げによりたな卸資産が増加したこと等により、前期末比458億円増加しました。

●負債の部

負債は、有利子負債の増加等により、前期末比672億円増加しました。

●純資産の部

純資産は、前期末比214億円の減少となり、自己資本比率は19.0%となりました。



事業の種類別セグメント情報 (2011年4月1日～2011年12月31日)

(単位:億円)

	石油事業	石油化学事業	石油開発事業	その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	21,694	98	343	160	—	22,295
セグメント間の内部売上高又は振替高	179	120	268	356	-922	—
計	21,873	218	610	516	-922	22,295
セグメント利益又は損失(-)	-61	13	361	13	-84	242

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、工事業、保険代理業、リース業、旅行業、風力発電業等を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失(-)の調整額-84億円には、セグメント間取引消去-7億円、たな卸資産の調整額-77億円、固定資産の調整額0.2億円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(-)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

※億円未満を四捨五入しています。

ニュース・ヘッドライン

News Headline

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。

詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2012年

3月23日	千葉製油所の常圧蒸留装置稼働準備開始について	
3月13日	東海・東南海・南海地震型 BCP総合訓練を実施	
3月12日	お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラムpart3 ～世界でたった1つのポートレート～ with ノッポさん」 四日市市少年自然の家での開催のご報告	3
3月5日	「Jazz Night @ 魚籃寺 2012」チャリティ・ジャズコンサート実施(協賛)のご報告	
2月16日	EV向け充電サービスのビジネスモデルに関する実証実験について	
1月16日	お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラムpart3 ～世界でたった1つのポートレート～ with ノッポさん」千葉市美術館での開催のご報告	
1月12日	千葉製油所の一部精製装置稼働再開について	
1月11日	SS販売促進プログラム「"ココロも満タンに" 宣言2012」について	1

2011年

12月27日	千葉製油所液化石油ガス出荷装置及び貯槽設備の使用停止命令解除と 一部精製装置の保安検査証の受領について	
12月26日	サービスステーションにおけるEV向け充電ビジネスモデルに関する共同実証実験について ～首都圏で4社共通の「EVサービスステーション・ネットワーク」を展開～	2
12月22日	長期入院中の子どもたちに励ましのメッセージを贈る 「コスモ・クリスマスカード・プロジェクト2011」実施のご報告	
12月5日	ヒュンダイオイルバンクとの技術委員会開催について	
11月25日	四日市製油所ミックスキシレン蒸留装置の竣工式開催について	

※ニュースの内容により色分けしています。 トピックス／CSR・社会貢献

※上記の日付はプレスリリース日です。

1

お客様に支持されるコスモブランドをめざして 「ココロも満タンに」宣言2012」がスタート

サービスステーション（SS）向けの販売促進プログラム「ココロも満タンに」宣言2012」が、1月からスタートしました。具体的な施策としましては、「ココロも満タンに」宣言3つの約束の徹底、「社会の一員としてのCSRの徹底」、「お客様ニーズの変化を捉え新たな需要を取り込む新しい仕組みの構築」を主な活動方針として、顧客管理システムやSS運営サポート、スタッフ教育支援、商品開発の支援策などを展開してい

きます。

市場におけるカーライフの変化に対応し、お客様に支持されるSSづくりを今後ともサポートしていきます。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_120111/index.html



2

EV向け充電ビジネスモデルの構築に向け 首都圏で4社共通の「EV向けネットワーク」を展開

当社及び国内石油元売会社3社は、首都圏における30ヵ所のSSにおいて、電気自動車（EV）の利用拡大に向けた共同実証実験を1月から3月にかけて実施しました。お客様には、各社の会員ユーザーの相互乗り入れにより、いずれのネットワーク参加SSにおいても急速充電が行えるとともに、共通のウェブサイトによって、充電器の位置・満空情報の提供や、メールによる充電完了通知などのサービスをご利用いただきまし



EV SERVICE STATION
NETWORK
石油元売企業 4社の共
通ロゴマーク

た。この共同実証実験によって得た知見を結集しながら、今後とも「次世代のSSづくり」「SSのさらなる利便性向上」に取り組んでまいります。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_111226/index.html



EV車向け急速充電器

ニュース・ヘッドライン

News Headline

3

「パパとキッズのアートプログラム part3 ～世界でたった1つのポートレート～ with ノッポさん」を四日市市少年自然の家で開催

当社は社会貢献活動の一環として、「父親の育児参加を応援する」ことを目的としたアートワークショップ「パパとキッズのアートプログラム」を全国の事業所所在地で開催しています。3月10日、三重県四日市市の少年自然の家で開催したワークショップには、21組48名の父子が参加。タレント、ノッポさんのアドバイスを受けながら、子どもたちと父親が互いの上半身を写し取り、絵を描いて切り取るという



ノッポさんと一緒に、父子が楽しみながら1つの作品をつくり、楽しいひとときを過ごしました

作業に取り組み、世界でたった1つの父子のポートレートを仕上げました。当社の社員もボランティアとして、会場の準備や後片付けなど運営をお手伝いしました。集まった参加費は、当社が同額をマッチングして難病の子どもを支援する認定NPO法人ファミリーハウスに寄付しました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_120312/index.html



コスモSS 新店舗 オープン情報

2011年11月から2012年3月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションを紹介します。“ココロも満タんに”の想いを込めた新店舗ですので、お近くにお住まいの方はぜひご来店ください。



■ 11月オープン

◎セルフ&カーケア浦和大門SS

埼玉県さいたま市

■ 3月オープン

◎館林瀬戸谷SS

群馬県館林市

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金 3月31日
支払株主確定日 1,000株
1単元の株式の数 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目
郵便物送付先 8番4号
三井住友信託銀行株式会社証券代行部
電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店で行っております。
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない
事故、その他やむを得ない事由が
生じた場合は、日本経済新聞に掲載
します。
公告掲載 URL
[http://www.cosmo-oil.co.jp/
ir/notice/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html)
上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等の お申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設され
ました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井
住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

Cover Story

カバーストーリー

●サンフランシスコ アメリカ

表紙のイラストは、当社グループがALA配合液体肥料の重要な市場として取り組みを始めている、米国西海岸のサンフランシスコをモチーフにしました。急坂の多いサンフランシスコでは、街に住む人々の足として、また観光のシンボルにもなっているケーブルカーが街の賑わいを演出しています。

表紙イラスト 古田 忠男



※世界を旅するALAちゃんは、
今もどこかで美しい花々を育て
ています。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』71号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室 〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様へ、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。